30 MESSAGE

透析医療の課題

黒川　清

『臨牀透析』が発刊されて30年がたった．関係者の方々にお礼と，お祝いを申しあげたい．

この長い間，継続できたのは企画を担当していただいた多くの関係者，編集者たちの努力ばかりでなく，時代時代の透析療法のエクスパートの内容のある原稿だ．

30年間に日本も，世界も大きく変わった．透析患者さんは1990年代の中ごろから糖尿病性腎症が主要な原疾患となり，この割合は増え続けている．患者の高齢化へのシフトもすすむ．また，世界同時の透析のデータ収集と多面的な分析により，海外との比較をする企画「DOPPS」が始まり，わが国の透析医療が世界の中でも優れていることがいろいろな指標で示されているのは，透析医療に従事する者たちの励みになっている．

経済成長が伸びないなかで，透析医療のコストは高齢社会への負担を考えても限界に近づいている．透析療法を今後どうするのか，社会的に大きな課題である．患者さんと家族などを巻き込みながら，費用の高騰にどう対応するのか，極めて，頭の痛いことだ．

この30年を振り返ると，多くの関係者のいろいろな歴史も見えるように思う．

ご苦労様です．

（政策研究大学院大学）

〈臨牀透析　2014　vol.30 no.1 p.8〉